

シネマ203

上映作品ラインナップ

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁に、日本最小の映画館がオープンしました。
大きなスクリーンと、包み込むような音響で映画に没入できる17席の空間で、
小さいけれど本格的な“極小極上”の映画体験をお楽しみください。
ドキドキするような世界の映画を、毎月の土日祝を中心に月替わりで上映します。



上映スケジュールはお客様と一緒に

毎月の土日祝は、シネマ203が上映時間を設定してスケジュールを発表します。

平日や夜などは、希望日予約を受付中。

ご希望の上映時間と、その月の上映作品を指定してお申込みください。追加上映します。

(HP、Facebook、Instagramで随時更新)

なお、ご観賞の事前予約を各回10名様まで承ります。(電話、メール、SNSメッセージ等で)

入場料金

一般：1,700円 / 大專：1,500円 / 小中高：1,000円 (特集上映など特別料金あり)

※ 各回開場時(上映10分前)に現金でお支払いください。

※ 2024年4月以降に新しい料金設定を導入予定です。

アクセス

本町公園より徒歩1~2分

北ぶらくり丁と本町公園を南北に
つなぐ細い道路に<北ぶらくり丁会館>
の鉄看板あり

【駅から徒歩】

和歌山市駅より徒歩10分(800m)

和歌山駅より徒歩25分(2km)

【駅からバス】各バス停より徒歩2~4分

和歌山市駅より約1~2分

和歌山駅より約5~9分

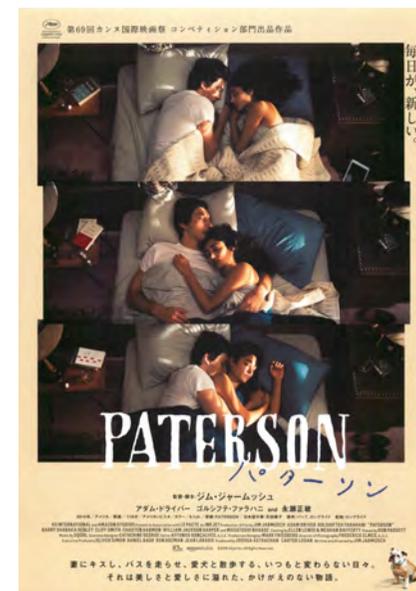


北ぶらくり丁会館 203号室

シネマ203

cinema203

2月の上映



和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com/



🎬 “善”であろうとする生身の女たち——あまりに現代的な葛藤に揺らぐ体験

シネマ 203 でいちばん古い映画を、いよいよ2月から連続上映します。噂の(?)映画作家ドライヤー監督は、調べてみたらチャップリンと同じ1889年生まれ。リュミエール兄弟のシネマトグラフ上映が1895年ですから、映画よりも年上です。今回の特集では、今から100年前のサイレント映画『ミカエル』から、1965年の遺作『ゲートルーズ』までの7作品を、毎月2本ずつ連続上映でお届けします。家族の無理解、報われぬ愛、禁断の関係、自分への疑い……生身の女たちを描く身近な人間ドラマの数々が、鏡のように見る者を映します。



カール・テオドア・ドライヤー セレクション vol.2

- 『ミカエル』 Mikaël (1924 独) 1h35
- 『あるじ』 Du skal ære din hustru (1925 丁) 1h47
- ★『裁かるゝジャンヌ』 La Passion de Jeanne d'Arc (1928 仏) 1h37
- 『吸血鬼』 Vampyr (1931 仏独) 1h14 *初のトーキー
- 『怒りの日』 Vredens dag (1943 丁) 1h27
- ★『奇跡』 Ordet (1954 丁) 2h06
- 『ゲートルーズ』 Gertrud (1965 丁) 1h58

★ 2月の上映

配給：ザジフィルムズ

🎬 パターソンと一緒に、歩く速度で人生を味わいたい

1月の『枯れ葉』に続いて、和歌山で生きる喜びを実感させてくれるアメリカ映画をお届けします。2016年公開の大ヒット作なのでご覧になった方も多いはずですが、やはりもういちど、大スクリーンで見てみたいと思いました。主人公のパターソンは、毎日を丁寧に生きるバス運転手。秘密のノートに日々綴る詩は、幸せの記録なのかそれとも……彼の細かな心の揺らぎを、大スクリーンで目撃ください。(ジャームッシュ作品もう1本上映します!)



『パターソン』 PATERSON

監督・脚本：ジム・ジャームッシュ
 撮影：フレデリック・エルムズ/音楽：SQÜRL
 出演：アダム・ドライバー、ゴルシフテ・ファラハニ、永瀬正敏
 提供：パップ、ロングライド | 配給：ロングライド
 ●第69回カンヌ国際映画祭 <パルム・ドッグ賞>受賞 etc.
 (2016年/アメリカ映画/118分/アメリカンビスタ)
 ©2016 Inkjet Inc. All Rights Reserved.

🎬 皆さまキートス！ フィンランド映画特集 続映&アンコール上映!!

カウリスマキ監督のファンが、和歌山には大勢いらっしゃいました！ 最新作『枯れ葉』と、そして過去6作品にご来場ありがとうございます。感謝を込めて、新たに『ラヴィ・ド・ボエーム』(91)も加えた8作品を、2月15日まで続映します。(希望日予約をお願いします)

そして、「年末で見逃したよ」とのお声が多かった『アアルト』も再上映が決定。こちらは16日から月末までの上映です。特集を後押ししてくれた [KORVAPUUSTI (和歌浦にあるフィンランド絵本・ヴィンテージ食器のお店)] では、アアルトの名作家具をミニチュアで再現した「artek ガチャ」もひき続き実施されていますので、あわせて是非!

2/1(木)~15(木)
『枯れ葉』 &カウリスマキ監督特集 6本+1本

2/16(金)~29(木)
『アアルト』 アンコール上映!

[KORVAPUUSTI]
 和歌浦実店舗は火・土 OPEN
 開店日は SNS で確認を)

🎨 芸術家はどこにいる

お正月3が日は、久しぶりに和歌山に帰省された若いお客様が客席に加わってくれて賑やかでした。ありがとうございます。そしてやっぱり、カウリスマキ監督の作品は今の北ぶらくり丁にピッタリで…『枯れ葉』の舞台でもある2024年は良い年になる! そんな期待に胸膨らむ年明けでした。

『枯れ葉』からのつながりで、今月はカウリスマキ監督の盟友ジャームッシュ監督の『パターソン』を上映します。何がつながっているんだろう、と、ひと月考えているうちに気がきました。『パターソン』はまた、来月上映予定の『ミカエル』につながっているのかもしれない。ドライヤー監督のサイレント作品『ミカエル』は、著名な画家と、画家志望の美しい青年ミカエルをめぐるドラマです。詩を書くパターソン、画家ゾレ、そしてミカエル。それを見ている映画ファンの自分と、シャンソンを口ずさみながらお帰りになる皆さまと。このタイミングで『ラヴィ・ド・ボエーム』も上映したいな……と

いう思い付きに始まって、今月は和歌山では未公開だったジャームッシュ監督の『ギミー・デンジャー』(16)も上映します。主演はイギー・ポップ、予告ナレーションは永瀬正敏さんということで、シネマ203はプレオープン作品『SUKITA』へ一周します。

そして、開館半年を迎える3月は、スペインから。ビクトル・エリセ監督31年ぶりの最新作『瞳をとじて』の和歌山公開(ジストシネマ和歌山の「サロンシネマ」枠にて3/8(金)~21(木))をお祝いして、『ミツバチのさきやき』(73)『エル・スール』(83)の2本を特別上映いたします。

映画ファンにとって、ヴィンテージ・ワインのような作品があります。大切な作品に巡り合い、人生をかけて自分の中で熟成させていく豊かな長い体験に、また1ページ、この春の和歌山の思い出を加えてください。

(北ぶらのフランケンシュタインより)

※ カウリスマキ作品のご観賞には、1月の半券にてリピーター割引をひき続きご利用ください。